

# バンコク銀行(BBL)

タイ経済は主要産業の観光業が牽引。中長期的にはタイ家計債務増加が懸念も、インドネシアの成長取り込み  
 タイ | 銀行 | 業績フォロー

**フィリップ証券株式会社**

BLOOMBERG BBL TB | REUTERS BBL.BK

- 2024/12期2Q（4-6月）は、総収益が前年同期比3.4%増、純利益が同4.5%増。貸出増と純金利マージン上昇もあり純金利収益が同5.2%増。
- タイ経済は主要産業の観光業が牽引。訪タイ外国人客数の回復続くなかビザなし滞在対象国の増加などで観光業の更なる活況が見込まれる。
- 中長期的には、タイ家計債務の対GDP比率の拡大が懸念材料も、傘下ブルマタ銀行を通じたインドネシアの成長取り込みが期待される。

## What is the news?

7/18発表の2024/12期2Q（4-6月）は、総収益が前年同期比3.4%増の435.38億THB、経費率が同3.3ポイント低下改善の44.1%、予想クレジット損失が同17.4%増の104.26億THB、純利益が同4.5%増の118.07億THBだった。タイ経済が観光業の回復や政府支出増、および輸出の増加を背景に伸びたことを受け、政策金利の引上げに伴う純金利マージン拡大と貸出増加が業績を牽引した。前四半期比では、総収益が4.5%増、純利益が12.2%増、貸出の質に係る不良債権比率（グロス）の6月末が0.2ポイント上昇悪化の3.2%となった。

2Qの総収益の内訳は以下の通り。①純金利収益は前年同期比5.2%増の331.34億THB。6月末貸出残高が同6.0%増加に加えて純金利マージン（NIM）が同0.12ポイント上昇の3.03%に改善したことが増収に寄与した。②非金利収益は同5.0%減の104.04億THB。純手数料・サービス収益が同4.2%増の68.50億THB、金融資産の公正価値評価損益などを含むその他営業収益が同19.0%減の35.54億THBだった。

## How do we view his?

タイ中央銀行（BOT）は6/12、政策金利（翌日物レポ金利）を4会合連続で年2.50%に据え置いた。更に、GDP成長率について、24年は2.6%、25年は3.0%と加速すると予測。24年の経済成長のプラス要因の1つとして観光業の回復が続いていることを挙げた。

タイの観光業は国内総生産（GDP）の2割弱を占める主要産業であり、24年1~4月の外国人客数は新型コロナウイルス禍前の19年1~4月に比べ9割弱まで回復。政府は6月からはビザ（査証）なしでタイに滞在できる対象国・地域の数従来57から93に拡大のほか、7/2の閣議で、観光客による国内での消費拡大につなげる狙いから国際線が乗り入れる空港の到着エリアで運営する免税店を閉鎖することを決定した。観光業の伸びはタイ最大の商業銀行であるバンコク銀行にとっても貸出残高の拡大につながると期待される。それに加え、21年5月に統合したブルマタ銀行を通じたインドネシアの成長も同行の成長を後押ししよう。

他方、タイの家計債務は国内総生産（GDP）比で91%台（23年末）に上り、東南アジアの域内でも突出して高い。それに加え、住宅ローン以外の債務が多いことから貸出の伸びの持続性には懸念される面もあることは中長期的には要注意だろう。

## 業績推移

※参考レート 1THB=4.32円

事業年度	2021/12	2022/12	2023/12	2024/12F	2025/12F
当期利益(百万THB)	26,507	29,305	41,635	43,194	44,892
EPS(THB)	13.89	15.35	21.81	22.28	23.04
PER(倍)	9.54	8.63	6.08	5.95	5.75
BPS(THB)	258.13	264.74	277.12	291.74	307.49
PBR(倍)	0.51	0.50	0.48	0.45	0.43
配当(THB)	3.50	4.50	7.00	7.06	7.33
配当利回り(%)	2.64	3.40	5.28	5.33	5.53

（出所：Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg）

配当予想(THB)	7.06	(予想はBloomberg)
終値(THB)	132.50	2024/7/19

## 会社概要

1944年設立のタイ最大の総資産を誇る銀行。東南アジアでも6番目に大きい。

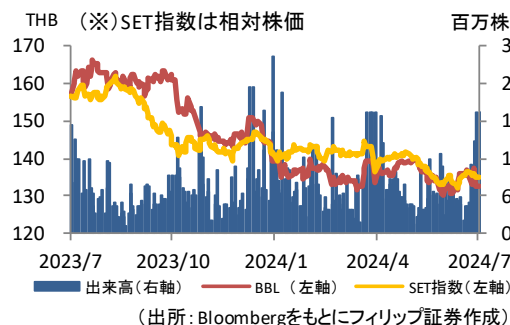
タイ国内では、約1700万に上る個人向け口座を有し、セルフサービス店舗を含む1200カ所の支店とコールセンター、インターネット・モバイルバンキングなどから成るチャンネルを通じ、商業銀行業務のほかファイナンシャル・プランニングや投資信託なども提供している。

また、約240カ所のビジネス拠点で企業金融及び中小企業向け融資サービスを提供しており、外国為替、送金、CMS(キャッシュ・マネジメントサービス)を取り扱っている。

国際銀行としても、カンボジア、中国、香港、インドネシア、日本、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、台湾、英国、米国、ベトナムの14カ国で300超の海外支店ネットワークを有する。

## 企業データ(2024/7/23)

ペータ値	0.70
時価総額(百万THB)	253,876
企業価値=EV(百万THB)	-
3ヵ月平均売買代金(百万THB)	953.8



## 主要株主(2024/7)

1.STOCK EXCHANGE OF THAILAND	22.93
2.ステート・ストリート	6.83
3.CITY REALTY CO LTD	4.01

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

## リサーチ部

笹木 和弘  
 +81 3 3666 6980  
 kazuhito.sasaki@phillip.co.jp

**【レポートにおける免責・注意事項】**

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>

・本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。